

令和6年度
北海道大学 大学院法学研究科 法律実務専攻
(法科大学院)

入学者選考試験【後期日程】
「小論文試験」問題冊子

試験時間 : 10:00～12:00

解答上の注意

1. 試験開始の合図があるまで、この問題冊子を開いてはならない。
2. 問題冊子は、表紙も含めて6ページある。
3. 解答用紙はB4版で、小論文【問題1】 (片面印刷)、小論文【問題2】 (両面印刷) の2枚である。
4. 解答用紙は、2枚とも必ず提出せよ。
5. 受験番号 (上下2箇所) および氏名 (上1箇所) を、すべての解答用紙の指定された箇所に必ず記入せよ。
6. 解答は、すべて所定の解答用紙の指定された欄に横書きで記入せよ。
7. 解答は、黒インクのボールペン又は万年筆 (ただし、インクがプラスチック製消しゴム等で消せないものに限る。) で記入せよ。
8. 必要以外のことを解答用紙に書いてはならない。
9. 問題冊子の余白は下書きに使用してもさしつかえない。
10. 草稿用紙は回収しない。

次の文章を読んで、問題に答えなさい。

(文章省略)

出典：児玉谷レミ・佐藤文香「戦時性暴力とジェンダー：男性被害者を包摂した議論のために」

(『思想』第 1177 号、2022 年 5 月、岩波書店)

(ただし、出題に際して、文章の一部を省略・変更した。)

問題 1 著者は、下線部のように「フェミニスト研究の問題意識を引き継ぎつつ、多様な形態の戦時性暴力を論じることの難しさ」を指摘する。戦時性暴力を、ジェンダー（性差）の非対称性あるいは支配／被支配の権力構造に着目するフェミニスト研究の問題意識から論じることには、どのような困難があるのか。本文に即して、説明しなさい。(500 字)

問題 2 本文後半部で、著者は、戦時における男性の性被害とジェンダー（性差）をあえて関連づけて論じる意義を説いている。男性の性被害をジェンダーの視点からどのように捉えたらよいか、著者の主張を整理してまとめたうえで、それと関連させながら、あなたの考えを自由に論じなさい。なお、性被害の事例を必ずしも戦時性暴力に限らなくてもよい。(900 字)